

福島第一原子力発電所

被災直後の対応状況について

○「3/11 14:46 東北地方太平洋沖地震発生。」から「15:27 津波第一波到達。」までの活動内容

【地震発生前の状況】

- ・ 発電所近辺の天候は曇り。発電所長は 15 時からの打合せに備えて所長室にいた。事務本館や現場では、打合せや自席での業務、現場立会など普段と変わらない業務が行われていた。
- ・ 1～3 号機は運転中、4～6 号機は定期検査中であった。4 号機はシュラウド交換、5 号機は原子炉圧力容器の耐圧漏えい試験中であり、現場で多くの作業が行われていた。その日、社員約 750 名、協力企業作業員約 5,600 名、計約 6,400 名が発電所で勤務していた。

【地震発生】

- ・ 11 日 14:46、地震発生。揺れは段々と大きくなっていった。事務本館では、各部署のマネージャーなどがメンバーに対して机の下に隠れるよう指示。各自、現場作業用のヘルメットをかぶるなどして、身の安全を確保した。



事務本館の状況

- ・ 防災部門のマネージャー及びメンバーは、揺れている最中に緊急放送の部屋に行き、避難の放送をしたが、途中で地震により放送設備が使用不能になった。その後、拡声器で避難するように呼びかけながら走り回った。
- ・ 揺れは長く続いた。天井のパネルは落下、棚は倒れて物が散乱、机は大きく動き、机の下に閉じこめられる人もいた。揺れが収まってから、閉じこめられた人を救出し、避難場所の免震重要棟脇の駐車場に移動した。1 週間程前に避難訓練を行ったばかりで、各自が避難通路、避難場所を把握していた。
- ・ 所長室では、棚に並べていたものなどが散乱する中、発電所長は机の両端を掴み、揺れが収まるのを待った。揺れが収まった後、ヘルメットをかぶり部屋の外に出た。事務本館の正面玄関付近には人がたくさんいたため、免震重要棟に避難するよう指示するとともに、グループ毎に人員確認をすること、作業員を全員避難させることを指示した。